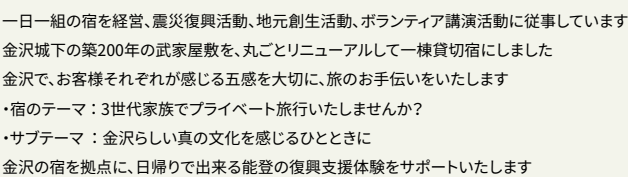


石川県/金沢市



 **photo**



Close-up



Menu

data

店舗名	一日一組の宿 森町壱番丁
住所	〒920-0927 石川県金沢市扇町11-31
アクセス	JR金沢駅【6】乗り場から90番、92番、94番バス ㊦ 横山町下車／徒歩5分
電話	090-4754-6925
営業時間	チェックイン / 15:00～ チェックアウト / 11:00
定休日	土曜・連休のみ営業中 / 1週1客のおもてなし
ご予約	ご予約はお電話 TEL.090-4754-6925、またはメール mori.ichi1131@gmail.com にて承っております。

オーナー紹介



家系	金澤 浅木家14代目当主
役職	一日一組の宿 森町売番丁
代表者	浅木 政宏

起業のきっかけ! 浅木 政宏さんの起業ストーリー

▶ 起業データ

前職	アシックス	開業年月	2018年5月	起業資金	借入：非公開 自己資金：非公開
----	-------	------	---------	------	--------------------

Q. 独立・起業のきっかけはなんですか？

A. 金沢の亡き父の実家の空き家問題を解決するために、一棟貸し切り型の宿のオーナーとしてセカンドキャリアを始めることを目標にいたしました。観光業界に入るにあたり、ハローワークに通いながら国内旅行業取扱管理者の資格を取得しました。兼六園から徒歩8分の城下町に位置する築200年の古民家(実家)をリノベーションして、2018年5月にオープンしました。宿名は、一日一組の宿「森町番丁」としました。

宿のテーマ:三世代家族でプライベート旅行を楽しむ

サブテーマ: 真の金沢らしい文化を感じてほしい

Q. 独立・起業するまでに苦労したことなどがあれば教えてください

Ａ.開発予定地域が住宅専用地域であったため新制度の住宅宿泊事業（民泊）を申請して開業準備を進めました。しかし、金沢市の条例により民泊営業は年間約60日、土曜日と連休のみに制限され、本来の経営が厳しい状況でした。それでも石川県内での様々な繋がりを活かし、ふるさと創生事業や観光業の仕事を兼業しています。

Q. 今、やりがいを感じることや、この仕事をする醍醐味はありますか？

A. 北陸地区のパソナ卒業生が集まる交流会を、当時プロデュース中の農家民宿で開催しました。この交流会を通じて、実際に宿泊していただいたお客様から率直なアドバイスをいただき大変参考になりました。また、卒業生同士がその後のビジネスで繋がる機会にもなり、パソナ卒業生＝農家民宿＝中能登町という五方良しの企画であったと感じています。

★★★★★ おかげさまで楽天トラベルの宿の口コミ評価が5.0をキープし、石川県ではNO.1となっています ★★★★★

Q. これからのビジョンについてお話しください

A. 過疎地で地方創生の仕事をするということは、その地方の衣・食・住・歴史・祭り・風習のギャップを楽しめるかどうかが成功の分岐点だと気付きました。

第1ステップ:都会と地方のギャップに興味を持ち、そのギャップを深掘りして理解すること、身も心も地域に入り込むか入り込めないかが分かれ目です。

第2ステップ: そのギャップを他のエリアに紹介したら「驚くかも」「面白いかも」「見せたいかも」と感じるこ、外者目線の企画・提案が地方創生に必要とされます。

第3ステップ: 地元の人で面白いと感じる人を探す、その土地の当たり前が世間では当たり前でないことを理解してもらうことが意外と大変です。

第4ステップ:企画段階で、今までの経歴(知識・経験・発信力)を地方創生に活かせる。

Q. 能登の震災について思うこと

A. 今、能登地震で多くの方が傷ついています。あきらめ感、何をして良いかわからない、何もできないという方が多いと感じています。それでも、「あはれ祭り(能登町宇出津/重要無形文化財)」が開催され、空港、鉄道、飲食店、ショッピングセンターやコンビニも、少しずつ震災前の能登に戻りつつあります。ただ、震災後の能登の宿泊施設の稼働率はまだまだ少ないため、金沢の一日一組の宿「森町番番」を拠点とした能登観光を企画しております。金沢城下の宿に泊まり、私がボランティアガイドとして能登の復興風景や美味しいものをご案内しております。

★復興エピソード★

震災から数日後、キリスト教牧師の支援隊が「森町番丁」を拠点に能登の復興支援活動を行いました。彼らは金沢から能登まで悪路を7時間かかって移動し、そのまま現地で6時間の支援活動を行い、私は宿のコンシェルジュとして出来る限りの後方支援で彼等を支えました。ある日、二次災害に巻き込まれた視察隊の救援依頼が入ったため、急遽、中能登町に住むドローンの操縦資格を持つバナ卒業生に連絡を入れたところ、珠洲市まで駆け付けてくれて現地の捜索活動に加わり視察隊救出に大きく貢献いたしました。今回の震災では「パナソニックグループメンバー」の日頃からの繋がりが地域の災害対策に活かされ、復興に向けた迅速な対応に役立ちました。